

人 チーム 制度



仕事も子育ても常に全力投球！
何事もフルパワーで取り組む鉄道設計技術者

中央復建コンサルタンツ(株) 安西綾子さん

今回ご紹介するのは中央復建コンサルタンツ(株)の鉄道系部門で設計業務に携わる安西綾子さん。仕事をこなしながら、5歳のお子さんを育てていらっしゃるようです。

これまでの経歴を簡単に教えてください。

阪神大震災が起こった年の4月に大学の土木工学科へ入学しました。恩師の影響を受け、現場に立ちたいという強い思いから、建設コンサルタントに就職しました。入社4年目から2年間の研究所出向では、設計基準の改訂に関わる貴重な経験と、さまざまな同業種の方とのつながりを得ました。これまで主に鉄道業務に携わり、新幹線や地下鉄の設計現場で日々仕事に取り組んでいます。

産休・育休を経験されていますが、仕事復帰をする際に不安だったことはありますか？

私の母は専業主婦だったので、仕事をしながら育児をするというイメージが湧かず、正直不安しかなかったんです。

仕事に関しては、復帰前に上司とじっくり面談を行い「どう働きたいか」を聞いてもらっていたので復帰への不安はあまりなかったですね。技術面では、定期的な社内講習会や、何より仲間のフォローがあったので助かりました。

プロフィール

氏名 : 安西 綾子 (40)
所属 : 中央復建コンサルタンツ(株)
鉄道系部門 地下鉄グループ
勤続年数 : 18年目
居住地 : 東京都
家族構成 : 夫(40) / 長男(5)
勤務状況 : 通常勤務
(入社以来東京勤務、転勤なし)

経歴

1999年04月	入社
2003年04月	鉄道総合技術研究所に出向
2005年04月	出向先から復帰
2007年05月	結婚
2009年03月	技術士取得
2012年05月	産休・育休取得
2013年04月	職場復帰



「先生んち」(=駅併設保育園)は狭いけど快適です

復帰後の仕事の対応はどうしていましたか？

しばらくは頻りに熱を出したり、夜泣きで睡眠がとれなくなったり、体力的には最高にしんどかったです。これは修行なんだ、と自分に言い聞かせていました。

仕事は、リズムがつかめるまでは遠方への出張を減らす配慮をしてもらいました。ですが、復帰したタイミングで偶然高架から地下へマイナーチェンジし新鮮な気持ちになったのと、「子供のために頑張ろう！(早く帰ろう！)」とモチベーションが高まったように思います。



子育てと仕事を両立させるために必要なことを教えてください。

早めの段取りと効率化を、常に意識しています。子供に対しては、出張や残業が続く場合、夜10分だけ本を読んだりなぞなぞ遊びをしたり、こまめに時間をとるようにしています。子供の夜更かしが目下の悩みです。

また、職場の人や近くに住む両親など、協力してくれる周囲の人への感謝の気持ちが一番大事だと感じています。余裕がないと、ささいなことで険悪な空気にもなるので、そんな時は外へ食事に行ったりしてリフレッシュしています。

最後に、後輩へのメッセージをお願いします

仕事とプライベート、これという一定の優先順位はなく、その瞬間ごとにすべてが最優先だという思いを私は持っています。

これから皆さんのまわりでもますます多様化が進むと思います。若いうちにできるだけ多くの技術を吸収して、出産・育児からの復帰後も輝けるように頑張ってください。仕事も遊びも、欲張りに楽しみましょう！

ある1日のスケジュール

6時30分	7時20分	7時40分	8時00分	9時00分	18時00分	19時00分	20時00分	21時30分	22時30分	23時00分	24時00分	
起床	朝食の用意 身支度・洗濯	家族を起こす 子供の朝食	出発	夫・長男出発	勤務開始 メールチェック ひたすら仕事	退社 翌日の仕事の確認	保育園お迎え 夕食の用意	夕食 夕食・荷物片付け	お風呂 お風呂	夫帰宅 長男寝かしつけ	翌日の準備	就寝